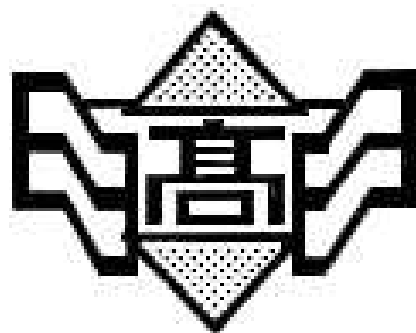


学 習 の し お り

1 年生用



2 0 2 5

宮城県宮城広瀬高等学校

目 次

1. これからの高校生活にあたって	1
2. 令和7年度入学生教育課程	3
3. 各科目の年間授業計画と学習の仕方（各教科）	4
4. 学習計画表（第1回～第4回定期考査）	3 6
5. 考査点・評価点をまとめよう	5 2
6. 私のスケジュール	5 3

これからの高校生活にあたって

宮城広瀬高等学校 教務部

皆さんは、これから高校で、新しい生活を始めようとしています。授業や部活動、さまざまな学校行事を通して、皆さんがより実りある高校生活を送ることを願っています。

さて、高校は中学校とは違って義務教育ではありません。皆さんは高校で学ぶことを希望して入学しました。つまり、皆さんは何らかの目標を達成するために本校に入学したはずです。大学や短大に進学するためであったり、自分の希望するところに就職するためであったり、部活動を頑張る良い結果を残すためであったり、その目標はさまざまだと思います。しかし、共通していえることは、これからの3年間、自らの目標を立て、いろいろなことにチャレンジし、努力を積み重ねていくことが必要だということです。その基本は学習（勉強）にあります。

以下に、義務教育とは違う点を説明しますので、よく理解をしておいて下さい。

1 履修について

履修とは授業に出席してきちんと授業を受けることをいいます。本校では、授業の欠席時数が標準時数（単位数×35時間）の3分の1を超えると履修が認められません。また、本校では全科目の履修を義務づけています。つまり、授業をある一定以上休んでしまうと履修が認められず、履修が認められない科目が1つでもある場合は、もう一度最初から同じ学年をやり直さなければなりません。

2 単位について

本校で設定している教科・科目は、それぞれに単位が定められています。たとえば、「現代の国語」は週2時間授業があるので、「2単位」の授業となります。

単位とは、各科目が一週間に実施される時間数のことをいいます。各科目等の1週間の授業時間が合計で31時間あるので、1年間で31単位分の授業を受けることになります。

3 単位修得と進級・卒業について

単位修得とは、1年間きちんと授業を受けて履修の認定を受けた科目の成績が一定の基準を満たした場合、年度末の3月に行われる成績会議で認定されるものです。

本校では卒業までに74単位以上を修得しないと卒業できません。また、1学年から2学年に進級するには25単位以上、2学年から3学年に進級するためには単位修得の合計が50単位以上必要です。もし単位修得数が基準に満たない場合は原級留置（留年）となり、もう一度同じ学年をやり直さなければなりませんので、十分注意して下さい。

4 定期考査と成績（評点）について

皆さんの日頃の学習の成果を確かめるために設けられているのが定期考査です。実技教科（体育・芸術等）を除くほとんどの教科・科目について、年4回、定期考査（試験）を実施します。定期考査の点数を含め、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点に基づいて総合的に評価を行い、皆さんの成績（評点）が出されます。

考査は絶対に欠席しないでください。欠席にやむをえない理由がある場合は追考査の受験を認めますが、その場合、最大でも得点の8割しか考査点として認められません。（忌引きや感染症等の出席停止、大会参加等の公認と認められる欠席の場合は、追考査の得点を10割認めます。）やむをえない理由以外で考査を欠席した場合には、考査点が0点となります。また、考査等において不正行為を行った場合には、当該科目の考査点が0点となるほか、相当の処分を受けることになります。

5 欠点と再指導について

30点未満の評点が欠点（赤点）です。定期考査終了後、再指導を受けることができます。再指導は各回の定期考査終了後に実施します。再指導を受ける際には、生徒本人と保護者が連署・押印した「再指導願」を教科担任に提出してください。再指導の成果が良好であれば、評点は最高で30点とします。再指導を受けなかった場合や再指導の成果が良好でない場合は、評点は欠点のままになります。

6 評定について

年4回出される成績（評点）を平均した点数が学年成績（一年間の成績）となり、5段階の評定が決まります。評定は学年成績が80点以上の場合は「5」、65～79点は「4」、45～64点は「3」、30～44点は「2」、欠点である29点以下は「1」です。評定が「1」の場合はその科目の単位の修得は認められません。この評定は、皆さんが進学や就職するときに重要ですので、欠点とならないようにしてください。

7 技能審査成果の単位認定

本校では、下表に示す技能審査に合格した場合、進級・卒業のための単位として認定しています。学校で受検できるものもあるので、積極的に受けることを期待しています。

技能審査の種類			対応する教科・科目		認定 単位数
主催団体	名称		教科	学習指導要領対応科目	
(公財)日本英語検定協会	実用英語技能検定	2級	外国語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ	いずれか 2単位
国際教育交換協議会日本代表部	TOEFL	IBT 48～67点	外国語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ	いずれか 2単位
(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC L&R/S&W	1150～ 1550点			
(公財)日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定	準2級 2級	国語	現代の国語	1単位 2単位
(公財)日本数学検定協会	実用数学技能検定	準2級 2級	数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ	1単位 2単位
(公財)全国商業高等学校協会	情報処理検定	1級	商業	情報処理	2単位
(公財)全国商業高等学校協会	ビジネス文書実務検定	1級			
(公財)全国高等学校家庭科教育振興会	全国高等学校家庭科 食物調理技能検定	2級	家庭	家庭基礎	いずれか 1単位
		1級		フードデザイン	いずれか 2単位
(学)香川栄養学園	家庭料理技能検定	2級	家庭	フードデザイン	2単位

8 学校外学修の単位認定

「社会体験・ボランティア活動」

主体的・継続的に取り組む姿勢を評価するため、「社会体験・ボランティア活動」という学校設定科目を設けています。年度始めに活動届を提出し、学校内外のボランティア活動に参加した時間が

50分×35＝1750分となるなど、本校の定める条件を満たした場合、各学年で2単位まで修得することができます。ただし、これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

宮城県宮城広瀬高等学校【令和7年度入学生教育課程】

単位	【第1学年】			【第2学年】				【第3学年】								単位		
								理系大学／高等看護			文系大学／専修各種学校／就職							
1	現代の国語 (2)			※論理国語 (2)				※論理国語 (2)			※論理国語 (2)					1		
2																2		
3	言語文化 (3)			※文学国語 (2)				※文学国語 (2)			※文学国語 (2)					3		
4																4		
5	地理総合 (2)			※古典探究 (2)				※古典探究 (2)			※古典探究 (2)					5		
6																6		
7	公共 (2)			歴史総合 (2)				政治・経済 (3)			政治・経済 (3)					7		
8																8		
9	数学Ⅰ (3)			数学Ⅱ (4)				体育 (2)			体育 (2)					9		
10																10		
11	数学Ⅰ (3)			数学Ⅱ (4)				英語コミュニケーションⅢ (4)			英語コミュニケーションⅢ (4)					11		
12																12		
13	数学A (2)			P	数学B (2)	音楽Ⅱ (2)	美術Ⅱ (2)	英語コミュニケーションⅢ (4)			英語コミュニケーションⅢ (4)					13		
14																14		
15	生物基礎 (2)			化学基礎 (2)				英語コミュニケーションⅢ (4)							15			
16															16			
17	体育 (3)			Q	物理基礎 (2)	地学基礎 (2)	A	数学C (2)	論理・表現Ⅲ (2)	論理・表現Ⅲ (2)					17			
18															18			
19	保健(1)			体育 (2)				B	数学Ⅲ (4)	発展理系数学 (4)	地理探究 (4)		日本史探究 (4)		世界史探究 (4)		19	
20																	20	
21	X	音楽Ⅰ (2)	美術Ⅰ (2)	保健(1)				C	化学 (4)	発展文系数学 (2)		音楽Ⅲ (2)	美術Ⅲ (2)	情報処理 (2)	21			
22															22			
23	英語コミュニケーションⅠ (3)			英語コミュニケーションⅡ (4)				D	化学 (4)	応用英語 (2)		スポーツⅠ (2)	生活と福祉 (2)	ビジネス基礎 (2)	23			
24															24			
25	論理・表現Ⅰ (2)			論理・表現Ⅱ (2)				E	物理 (4)	生物 (4)	実践化学基礎 (2)		実践地学基礎 (2)		保育基礎 (2)		ビジネス・コミュニケーション (2)	25
26																		26
27	情報Ⅰ (2)			家庭基礎 (2)				F	物理 (4)	生物 (4)	実践化学基礎 (2)		実践地学基礎 (2)		保育基礎 (2)		ビジネス・コミュニケーション (2)	27
28																		28
29	情報Ⅰ (2)			家庭基礎 (2)				F	物理 (4)	生物 (4)	実践化学基礎 (2)		実践地学基礎 (2)		保育基礎 (2)		ビジネス・コミュニケーション (2)	29
30																		30
31	総合的な探究の時間(1)			総合的な探究の時間(1)				総合的な探究の時間(1)			総合的な探究の時間(1)					31		
32	ホームルーム活動(0)			ホームルーム活動(0)				ホームルーム活動(0)			ホームルーム活動(0)					32		
33	総合的な探究の時間(1)			総合的な探究の時間(1)				総合的な探究の時間(1)			総合的な探究の時間(1)					33		
34	ホームルーム活動(0)			ホームルーム活動(0)				ホームルーム活動(0)			ホームルーム活動(0)					34		

「学校外学修」による単位認定

ボランティア活動は各学年最大2単位、3年間で6単位までの修得が可能。インターンシップ活動は第2学年のみ1単位まで修得可能。

32	社会体験・ボランティア活動 (0)，(1)，(2)		社会体験・ボランティア活動 (0)，(1)，(2)				社会体験・ボランティア活動 (0)，(1)，(2)				32
33											33
34	*		社会体験・インターンシップ活動(0)，(1)				*				34

「第3学年」における単位数及び科目選択について

	理系の単位数	文系の単位数				
国語	6	6	理系等	A	16～17	数学C(2)又は論理・表現Ⅲ(2)を選択
地理歴史	0	4		B	18～21	数学Ⅲ(4)又は＋発展理系数学(4)を選択
公民	3	3		E F	26～29	物理(4)又は生物(4)を選択
数学	4，6	0，2	文系等	B	18～21	地理探究(4)，日本史探究(4)，世界史探究(4)から1科目選択
理科	8	0，2，4		C	22～23	発展文系数学(2)，音楽Ⅲ(2)，美術Ⅲ(2)，情報処理(2)から1科目選択 音楽Ⅲ(2)は第2学年で音楽Ⅱ(2)を，美術Ⅲ(2)は第2学年で美術Ⅱを履修した者が選択できる
保健体育	2	2，4		D	24～25	応用英語(2)，スポーツⅠ(2)，生活と福祉(2)，ビジネス基礎(2)から1科目選択
芸術	0	0，2，4		E	26～27	実践化学基礎(2)，実践地学基礎(2)，保育基礎(2)，ビジネス・コミュニケーション(2)から1科目選択
外国語	4，6	6，8		F	28～29	実践生物基礎(2)，フードデザイン(2)，器楽(2)，情報メディアデザイン(2)から1科目選択
家庭	0	0，2，4，6				
商業	0	0，2，4，6				

就職希望者は選択することが望ましい

福祉・保育関係の進路希望者は選択することが望ましい

分割履修科目について(※)

論理国語，文学国語，古典探究は第2学年及び第3学年における分割履修科目である。

学校設定科目について

社会体験・ボランティア活動は第1学年，第2学年及び第3学年における学校設定教科・科目である

社会体験・インターンシップ活動は第2学年における学校設定教科・科目である

発展理系数学，発展文系数学，実践化学基礎，実践生物基礎，実践地学基礎，応用英語は第3学年における学校設定科目である。

現代の国語

○学習のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3) 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。授業で取り組む活動について、事前の情報収集が大切です。担当の先生の指示に従い、事前の準備を進めましょう。

授業 ～主体的に取り組む態度～

話すのが苦手な人も、書くことが苦手な人も、積極的に活動することが大切です。ペアワークやグループワーク活動の中で、順序だてて話す、書くといった練習をしていきましょう。

復習 ～振り返り～

その日の授業を通して、具体的に何ができるようになったのかを書き留めておきましょう。できるようにならなかったという反省も大切です。次回の課題にしていきましょう。

○評価の方法○

観点ごとのポイント							
I 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。						
II 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。						
III 主体的に取り組む態度	言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。						
評価の場面	考查	考查以外					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	考查	小テスト	学習状況の観察	作文	スピーチ	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎		○			
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	現代の国語	1学年 全クラス	2	新編 現代の国語 (東京書籍)	新編現代の国語 学習課題ノート(東京書籍) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) TOP2500 四訂版(いいずな書店)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A: 達成できた B: まあまあ C: 達成できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	気になるニュースについて 話そう	5 話・聞	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫した。	A・B・C
		山崎正和「水の東西」	5 読む	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握した。	A・B・C
5		集めた情報の内容を検討して 意見文を書こう	6 書く	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にした。	A・B・C
6	考 査		1			
7	第二 回 考 査 範 囲	わかりやすい説明をしよう	3 話・聞	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討する。	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討した。	A・B・C
8		鈴木菜々子「森で染める人」	5 読む	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握した。	A・B・C
9		情報を整理しながら話し合おう	3 話・聞	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫した。	A・B・C
	9	憧れの職業について調べ、 整理してまとめよう	7 書く	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫した。	A・B・C
		考 査	1			
10	第三 回 考 査 範 囲	発想を広げる方法を使って 話し合おう	4 話・聞	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりした。	A・B・C
		新聞記事を読んで意見文を 書こう	7 書く	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫した。	A・B・C
11		港千尋「無彩の色」	5 読む	目的に応じて、文章や図表などに含まれている除法を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深める。	目的に応じて、文章や図表などに含まれている除法を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深める。	A・B・C
	考 査		1			
12	第四 回 考 査 範 囲	鷲田清一「真の自立とは」	5 読む	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、文章の構成や論理の展開などについて評価するとともに、自分の考えを深める。	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、文章の構成や論理の展開などについて評価するとともに、自分の考えを深めた。	A・B・C
1		読み手のアドバイスを生かして 紹介文を書こう	6 書く	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉えなおす。	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉えなおした。	A・B・C
2		資料を活用して発表しよう	5 話・聞	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する。	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫した。	A・B・C
3	考 査		1			
		新年度の準備		新年度の授業について確認する	新年度の授業について確認できた	

言語文化

○学習のねらい○

言葉による見方や考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質能力を育成する。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。言語文化の授業では、ノートづくりが大切です。担当の先生の指示に従い、予習ノートを作ります。

授業 ～主体的に取り組む態度～

言語文化では、言葉に対する正しい理解が大切です。語句や文法への理解を深めていくとともに、作品や文章に表れているものの見方、感じ方を捉え、内容の解釈を深めていきましょう。

復習 ～振り返り～

その日の授業の中で学習した語句や文法を復習しましょう。特に新しく触れた語句はしっかりと身に付け、次回からの内容の解釈に活用できるようにしていきましょう。

○評価の方法○

観点ごとのポイント							
I 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。						
II 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。						
III 主体的に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。						
評価の場面	考查	考查以外					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	考查	小テスト	学習状況の観察	書くこと	作文	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎		○			
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	言語文化	1学年 全クラス	3	新編 言語文化 (東京書籍)	新編言語文化 学習課題ノート(東京書籍) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) TOP2500 四訂版(いっずな書店) 古典の手引き(いっずな書店)	105

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:達成できた B:まあまあ C:達成できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	○ 随筆 生きる喜び 俵万智「さくらさくらさくら」	5 現	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
		○ 古文入門 「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語)	12 古	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ▼古文と現代文の違いを知り、古文を読む基礎となる文語の決まりを理解する。説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めた。	A・B・C
6		○ 随筆 日々の思い 「奥山に、猫またといふものありて」(徒然草) 「うつくしきもの」(枕草子)	8 古	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に捉える。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
		考 査	1			
7	第二回 考 査 範 囲	○ 漢文入門 訓読の基本	8 漢	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ▼漢文の特色を知り、きまりを理解する。格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えた。	A・B・C
8		○ 漢文入門 故事成語「五十歩百歩」(孟子)	9 現	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
9		○ 小説1 触れ合う心 三浦哲郎「とんかつ」	7 古	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
		考 査	1			
10	第三回 考 査 範 囲	○ 詩歌 うたの心 大岡信「折々のうた」	7 古	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ▼詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を捉える。特徴的な表現の技法と効果について理解する。	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めた。	A・B・C
		○ 詩歌 命をうたう 現代短歌・俳句・詩 歌詞の意味や表現技法について考えよう	6 現	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ▼詩や短歌、俳句に親しみ、深く読み味わう力を養う。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができた。	A・B・C
		○ 漢詩 漢詩を味わう 絶句と律詩 「鹿柴」(王維) 「春曉」(孟浩然、幸田露伴) 漢詩と日本文学	7 漢	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ▼漢詩を繰り返し音読し、優れた表現に親しむ。漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取る。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができた。	A・B・C
11		○ 短歌を作る	5 書	自分の知識や体験の中から適切な材料を集め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。	自分の知識や体験の中から適切な材料を集め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にした。	A・B・C
	考 査		1			
12	第四回 考 査 範 囲	○ 物語 古人の生き方 「芥川」(伊勢物語)	7 古	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えた。	A・B・C
1		○ 小説2 葛藤する心 芥川龍之介「羅生門」 元になった古典作品と読み比べよう	10 現	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。 ▼極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価した。	A・B・C
		○ 論語 論語のことば 論語 『論語』の注釈を読む	5 漢	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ▼孔子の学問・人間・政治の在り方についての考えを捉え、ものの見方や考え方を豊かにする。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができた。	A・B・C
2		○ 物語を作ろう	5 書	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫した。	A・B・C
	考 査		1			
3		新年度の準備		新年度の授業について確認する	新年度の授業について確認できた	

1年 地理総合

○ 学 習 の ね ら い

- ・学習全体を通して GIS（Geographic Information System）を活用する能力を高め、世界を多面的に理解する。
- ・学習内容や身近な話題から地球的課題について考える視野を養い、SDGs の課題に向き合う。
- ・日本を中心とした自然環境の理解を深め、気候や地形の知識をもとに気象の地球的变化や自然災害について考え、防災意識の向上をはかる。

○ 学 習 方 法

1 授業のはじめに

- ・教科書の各ページに明記されている学習課題を確認し、授業内で身に付ける知識を明確にする。

2 授業内における活動について

- ・授業は講義・調査・データ読み取りと作成・ICT 活用等多岐にわたります。この科目では、特に主体的な活動を多く求められます。時間内に決められた作業を的確に行うことも学習と評価に含まれます。
- ・授業では教科書だけでなく地図帳や資料等多くの文献やデータを扱います。常に整理し、管理して下さい。〔学習教材の不備やプリントの紛失も学習活動の一環として評価します（マイナスの評価）。〕

3 授業のまとめ

- ・教科書の巻末にある確認は授業ごとに行います。深い学びについては、各自授業後に自主的に行うことを期待しています。

○ 評 価 の 方 法

考查は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考查の割合は 60%以上を原則として、下記の観点に基づいて 100 点満点で総合的に評価を行います。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	地理的な事柄や現象について理解しているとともに、地理を学術的に探究するために必要な知識と技能を身に付けている。 デジタルツールを使用して、GIS の実践を行うことができる。
II 思考・判断・表現	地理的な事柄や現象の中から問題を見だし、調査、データの整理や作成などを通して、地理的に考察し、数字や文章を自分の言葉で表現することができる。 統計資料や地図を地理的視点から読み取り、データ内にある事実を見だし、他者に説明・表現することができる。
III 主体的に取り組む態度	学習のテーマに対し、自らの意志で主体的に関わる。また指示された内容については的確に内容を把握し、見通しをもって課題を遂行する。同時に学習内容を自分の生活に関連付けて考察し、自ら課題を見つけて、さらに探究して学習する意欲が見られる。

評価の場面	考查	考查以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	各考查	小テスト	学習状況の観察	授業内パート	GIS 活用	課題	ワークノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎			◎		○	
II 思考・判断・表現	○	○		◎		◎		◎
III 主体的に取り組む態度			◎	○	◎	○		◎

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
地理歴史	地理総合	1年必修	2	高等学校新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)	最新地理図表 GEO(第一学習社) 新地理総合ノート(帝国書院)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容	到達目標	自己評価
				※どのような内容を学ぶのか？	※どのようなことを身に付けたいか。	A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	私たちが地理を学ぶ意義 第1部 地図でとらえる現代社会 第1章 地図と地理情報システム	17	・地理を学ぶ意義 ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 ・地形図の利用 ・統計地図の種類	・地理総合の学びと自分や生活への繋がりにについて考える ・球体としての地球の特性と時差を理解する ・地図の役割と読み方を理解する ・地形図の読み方とその意義について考察する ・統計地図の種類とそれぞれの特性を理解する ・統計地図を作成する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5						A・B・C
	考 査		1			
6	第二回 考 査 範 囲	第1部 地図でとらえる現代社会 第2章 結び付きを強める現代社会	17	・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界 ・貿易・交通・通信・観光	・国家、領域について概念形成を行う ・国家間の結びつきについて各側面から考える ・貿易・交通・通信・観光の近年のグローバル化について考察することができる	A・B・C A・B・C A・B・C
7		第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解		・生活文化の多様性	・生活文化を考察する方法について考える	A・B・C
8				・大地形と人々の生活 ・小地形と人々の生活	・地形の歴史と人類の関わりについて理解する ・生活舞台としての小地形を理解する	A・B・C A・B・C
9						
	考 査		1			
10	第三回 考 査 範 囲	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	16	・世界の気候と人々の生活 ・世界の言語、宗教と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活	・気候区分について理解する ・各気候帯の生活文化を考察する ・モンスーンアジアの生活文化を考察する ・世界の言語について整理する ・世界の宗教について整理する ・各種産業の成り立ちについて ・三角グラフを読みこなす	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11						
	考 査		1			
12	第四回 考 査 範 囲	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力	16	・地球的な課題 ・資源エネルギー問題 ・人口問題	・SDGsについての基本を理解する ・エネルギー、鉱産資源の分類を理解する ・先進国と途上国の人口問題について考察し、解決策を考える	A・B・C A・B・C A・B・C
1		第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災		・日本の自然災害 ・地震・津波と防災	・日本の火山災害について理解し、防災について考察する ・気象災害の現状と防災について考察する ・地理院地図を活用してハザードマップについて理解する	A・B・C A・B・C A・B・C
2		第2章 生活圏の調査と地域の展望		・生活圏の調査と地域の展望	・地理的課題について理解する ・フィールドワークの手法について理解する	A・B・C A・B・C
3	考 査		1			
				・フィールドワークを行う	・ポスターセッションを通じて実践学習を行う	A・B・C

1 年 公共

○ 学 習 の ね ら い

先哲が思考した人間と社会の在り方に関する見方・考え方に触れ、現代の諸課題の追究と解決を行う活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

あらかじめ教科書や資料集に目を通し、概要をつかんでおくこと。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 授業に集中し、常に自分の知っている知識との関連性について考えること。
- ② 考えたこと、調べたこと、気付いたことなども積極的に発言し、記録すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ① 授業内容を振り返り、自分なりにまとめ、整理しておくこと。
- ② 問題集に取り組み、自身の知識の定着をはかること。

○ 評 価 の 方 法

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	現代の諸課題を捉えて考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。							
II 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。							
III 主体的に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。							
評価の場面	考查	考查以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考查	小テスト	学習状況 の観察	レポート	課題	ノート プリント	自己評価	グループ ワーク
I 知識・技能	◎	◎		○				
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○	◎
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○	○

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
公民	公共	1年 全クラス	2	新版 公共 (数研出版)	教科書準拠版 新版 公共 整理ノート (数研出版)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	17	・青年期の意義 ・源流思想 ・日本の思想家の思想	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 ・先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 ・古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C
5		第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理		・西洋思想 ・現代の諸課題と倫理	・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	A・B・C A・B・C
6		第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理		・政治の成り立ち ・日本国憲法と人権	・法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。 ・日本国憲法で保障されている権利が理解できている。	A・B・C A・B・C
	考 査		1			
7	第二 回 考 査 範 囲	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	17	・国内政治のしくみ ・選挙・政党・地方自治・世論	・わが国における三権の権限や現状を理解できている。 ・選挙のしくみが理解できている。 ・政党の役割を理解できている。 ・地方自治の現状と課題が理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8		第5章 現代の経済や会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構		・経済のしくみ	・現代の企業の果たしている役割が理解できている。 ・市場経済のメカニズムが理解できている。	A・B・C A・B・C
9						
	考 査		1			
10	第三 回 考 査 範 囲	第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	16	・財政・金融の役割 ・戦後の日本経済・中小企業 ・消費者問題・公害と環境・労働者	・政府が経済に果たしている役割を理解できている。 ・戦後日本経済のあゆみが理解できている。 ・私法・契約の原則やその修正について理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C
11		第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力		・国際社会のしくみ ・国際平和 ・国際家財のしくみ	・国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。 ・現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 ・戦後の国際経済の流れが理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C
12						
	考 査		1			
1	第四 回 考 査 範 囲	持続可能な社会作りの主体となる私たち	16	・探究学習	・現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。 ・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 ・現代社会の諸問題について、探究するための資料を収集・選択し、的確に分析できている。	A・B・C A・B・C A・B・C
2						
3						
	考 査		1			
3		新年度の準備				

1 年 数学 I

○ 学 習 の ね ら い

方程式と不等式、2 次関数および図形と計量、データの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習とは、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習時間がとれない場合でも、次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。それよりも、前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります。真の実力とはいえません。理解できた、という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく、先生の発言で大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授 業 後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視して下さい。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評 価 の 方 法

考查は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考查の割合は 70%程度を原則として、下記の観点に基づいて 100 点満点で総合的に評価します。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	各章の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。
II 思考・判断・表現	数や式を多面的に見て適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を表や式やグラフと関連付けて考察する力、社会の事象などの問題についてデータを分析し、問題を解決し、解決の過程や結果を考察し判断する力を身に付けている。
III 主体的に取り組む態度	数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとしている。

評価の場面	考查	考查以外				
	①	②	③	④	⑤	⑥
	考查	小テスト	学習状況の観察	課題	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎				
II 思考・判断・表現	○	○		◎		
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎

※記号の凡例 (◎: 特に重視する、○: 重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学 I	1年 全クラス	3	最新 数学 I (数研出版)	パラレルノート数学 I (数研出版)	105

年間授業計画

月		考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4		第一 回 考 査 範 囲	第1章 数と式 第1節 数と式	2 2 2 2 2 2	1. 多項式 2. 多項式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫 5. 因数分解 6. いろいろな因数分解	多項式を降べきの順に整理したり、特定の文字に着目して整理したりすることができる。 多項式の加法、減法、乗法の計算ができる。 展開の公式を利用できる。 文字のおきかえや掛ける順序を工夫して展開することができる。 共通因数をみつけ、共通因数のくり出しができ、因数分解の公式を利用できる。 文字のおきかえや1つの文字に着目して整理し、因数分解することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
			第2節 実数	2 3	1. 実数 2. 根号を含む式の計算	実数の絶対値を、数直線上で原点からの距離として考察することができる。 根号を含む式の計算や分母の有理化ができる。	A・B・C A・B・C
5			第3節 1次不等式	1 1 2 1 1	1. 不等式 2. 不等式の性質 3. 1次不等式の解き方 4. 連立不等式 5. 不等式の利用	不等式が値の範囲を表すことを理解し、その範囲を数直線上に表すことができる。 等式の性質との違いに留意し、不等式の性質を理解することができる。 不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。 連立不等式の解の意味を理解し、連立不等式を解くことができる。 不等式を利用して、身のまわりの問題を解くことができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
			考査	1			
6			第2章 集合と命題	2 3 2 4	1. 集合と部分集合 2. 共通部分、和集合、補集合 3. 命題と集合 4. 命題と証明	集合の表し方、用語、記号について、図と関連付けて理解することができる。 共通部分、和集合、補集合について、図を用いて理解し、記号を用いて表すことができる。 集合の包含関係や反例を調べるなどして、命題の真偽を判定することができる。 対偶や背理法を用いて、命題を証明することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
			第3章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ	1 1 1 1 1 2	1. 関数 2. 関数とグラフ 3. $y=ax^2$ のグラフ 4. $y=ax^2+q$ のグラフ 5. $y=a(x-p)^2$ のグラフ 6. $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ	2つの数量の関係を関数の式で表現することができる。 傾きと切片に着目して、1次関数のグラフをかくことができる。 2次の係数aによって、2次関数のグラフがどのように変化するか理解することができる。 $y=ax^2+q$ のグラフと $y=ax^2$ のグラフとの位置関係を理解することができる。 $y=a(x-p)^2$ のグラフと $y=ax^2$ のグラフとの位置関係を理解することができる。 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフについて、x軸方向、y軸方向の平行移動の組み合わせとみて考察することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
7		第二 回 考 査 範 囲		3	7. $y=ax^2+bx+c$ のグラフ	$ax^2+bx+c=a(x-p)^2+q$ の形に変形できる。 平方完成を利用して $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくことができる。	A・B・C A・B・C
				2 2	8. 2次関数の最大・最小 9. 2次関数の決定	グラフを利用し、2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 与えられた条件を満たす2次関数を求めることができる。	A・B・C A・B・C
8			考査	1			
			第2節 2次方程式と2次不等式	2 2 6 1	10. 2次方程式 11. 2次関数のグラフとx軸との共有点 12. 2次不等式 13. 2次不等式の利用	因数分解や解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 判別式の符号と2次方程式の実数解の個数の関係を理解することができる。 2次関数のグラフとx軸との共有点、2次方程式の実数解の関係について理解することができる。 グラフを利用し、2次不等式を解くことができる。 2次不等式を利用し、身のまわりの問題を解くことができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
9		第三 回 考 査 範 囲	第4章 図形と計量 第1節 三角比	3 3 2 2 2	1. 鋭角の三角比 2. 三角比の利用 3. 三角比の相互関係 4. 三角比の拡張 5. 三角比が与えられたときの角	直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができる。 三角比を利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。 拡張された三角比を、座標平面に図示して考察することができる。 三角方程式を解くことができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
			第2節 正弦定理・余弦定理	2 3 2 1	1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積 4. 図形の計量	正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。 余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。 正弦定理や余弦定理を利用し、図形を計量することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
10			考査	1			
			第5章 データの分析	2 2 4 4 2 2 2	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばり 4. データの相関 5. 相関係数 6. 分割表 7. 仮説検定の考え方	階級、度数などの用語を理解し、データを度数分布表にまとめ、ヒストグラムをかくことができる。 最頻値、中央値、平均値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 四分位範囲や箱ひげ図をもとに、中央値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。 散布図や相関表をもとに、データの相関について理解することができる。 相関係数の定義とその意味を理解し、相関係数を計算することができる。 分割表をもとに2つの変量の関係を調べることができる。 仮説検定の考え方を理解している。 仮説検定の考え方をういて、ある事柄が正しいかどうかを判断することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		第四 回 考 査 範 囲		2			
			考査	1			
12			課題学習	4	課題学習	身近な問題に対して、積極的に数学を活用しようとすることができる。	A・B・C

1 年 数学A

● 学習のねらい

場合の数と確率や図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ることで、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用できるようにする。

● 学習方法

1 心得

中学校で学んだ内容にも触れますが、高校での学習内容は中学と比べてより抽象的になり、理解するためには時間と努力を要します。授業をしっかりと聞き、自主的に取り組むことが一番大切です。「苦手だから」や「難しいから」といって、投げ出すことのないよう、粘り強く取り組みましょう。

2 授業の前（予習）

予習では、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。部活動等で疲れてしまっても、短い時間でも予習は行ってください。次の授業で進む分野に目を通しておくことは習慣にしてください。予習の段階で教科書の練習問題をすべて解くまでのことは求めません。前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

3 授業中（注意点）

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通りに問題を解いて正解となることもあります。それは真の実力ではありません。「理解できた」という実感を持つまで取り組むことが大切です。ノートのとり方も工夫が必要です。大事なことはしっかりメモし、時間をおいて後から見ても自分が理解できるノート作りをしましょう。

4 授業後（復習）

授業で理解したつもりでも、しばらくすると忘れてしまうものです。習ったことを確実に定着させるためには復習が大切です。授業で取り扱った問題は「その日のうちに」「何も見ないで解けるようになるまで」解き直して下さい。解けなかった問題や授業で分からなかったところは、絶対に放置しないで、空いている時間を見つけてできるだけ早く先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。多くの問題を解くことも大事ですが質も重視する必要があります。進学を目指す人は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、後に大きな力となります。

● 評価の方法

定期考査による評価は全体の70％程度を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	場合の数と確率、図形の性質の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
II 思考・判断・表現	事象を数学的に考察して推論したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
III 主体的に取り組む態度	事象における数学的な考え方に興味を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。

評価の場面	考査	考査以外				
	①	②	③	④	⑤	⑥
	考査	小テスト	学習状況の観察	課題	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎				
II 思考・判断・表現	○	○		◎		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	◎	○

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学A	1年 全クラス	2	最新 数学A (数研出版)	パラレルノート数学A (数研出版)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	第1章 場合の数と確率	1	1. 集合	集合の表し方、用語、記号を理解し、記号を使って表すことができる。	A・B・C
		第1節 場合の数	2	2. 集合の要素の個数	補集合、和集合の要素の個数をベン図や公式を利用して求めることができる。	A・B・C
			3	3. 和の法則、積の法則	和の法則、積の法則について、具体例を用いて理解する。	A・B・C
5			4	4. 順列	順列の用語、記号、公式を理解し、具体的な問題を通じてどのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	A・B・C
	第二 回 考 査 範 囲		3	5. 円順列と重複順列	円順列、重複順列と順列の違いについて興味・関心を持ち、公式を用いて円順列や重複順列を求めることができる。	A・B・C
			4	6. 組合せ	組合せの意味や性質を理解し、公式を用いて総数を求めることができる。	A・B・C
6		考 査	1			
			2	7. 確率の意味	確率の意味を理解する。	A・B・C
	第三 回 考 査 範 囲	第2節 確率	2	8. 確率の計算	身近な事象の確率に興味・関心を持ち、簡単な確率を求めることができる。	A・B・C
			2	9. 確率の基本性質	積事象、和事象の意味を理解し、集合で表すことができる。	A・B・C
7			3	10. 和事象の確率	確率の加法定理を用いて確率を求めることができる。	A・B・C
			2	11. 余事象の確率	余事象の確率の公式を利用して確率を求めることができる。	A・B・C
8	第四 回 考 査 範 囲		2	12. 独立な試行の確率	独立な試行の意味を理解し、公式を用いて求めることができる。	A・B・C
			3	13. 反復試行の確率	反復試行の確率を公式を用いて求めることができる。	A・B・C
9		考 査	1			
	第五 回 考 査 範 囲	第2章 図形の性質	2	14. 条件付き確率	条件付き確率の定義、意味を理解し、公式や乗法定理を用いて確率を求めることができる	A・B・C
			3	15. 期待値	期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる	A・B・C
10		第1節 三角形の性質	2	1. 角の二等分線と比	三角形の角の二等分線と線分の比の性質から線分の長さを求めることができる。	A・B・C
			2	2. 三角形の外心、内心、重心	三角形の外心、内心、重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	A・B・C
	第六 回 考 査 範 囲		3	3. チェバの定理、メネラウスの定理	三角形の面積と線分の比の性質を理解している。またチェバの定理やメネラウスの定理を用いて線分の比を求めることができる。	A・B・C
		第2節 円の性質	2	4. 円周角の定理	円周角の定理を理解し、角の大きさを求めることができる。	A・B・C
11			2	5. 円に内接する四角形	円に内接する四角形の性質を用いて角の大きさを求めたり、四角形が円に内接するかどうかを判定できる	A・B・C
		考 査	1			
12	第七 回 考 査 範 囲	第3節 作図	2	6. 円と接線	円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。	A・B・C
			2	7. 線と弦の作る角	接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	A・B・C
1		第2節 円の性質	3	8. 方べきの定理	方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	A・B・C
			2	9. 2つの円	2円の位置関係に5つの場合があることや2円の共通接線について理解し、共通接線の長さを求めることができる。	A・B・C
	第八 回 考 査 範 囲	第4節 空間図形	3	12. 空間における直線と平面	2直線の関係、直線と平面の関係、2平面の関係について理解できる。	A・B・C
2			2	13. 多面体	5種類の正多面体の特徴を理解し、オイラーの多面体定理が成り立つことに興味を持って確かめようとする。	A・B・C
		考 査	1			
3		第3節 作図	1	10. 基本の作図	垂線、垂直二等分線、角の二等分線、平行線の作図を行うことができる。	A・B・C
			2	11. いろいろな作図	既習の図形の性質を利用して、円の外部の点を通る円の接線や、線分を内分する点を作図することができる	A・B・C

1 年 生物基礎

○ 学 習 の ね ら い

- ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うことをねらいとする。高校で初めて学習する理科科目となる。生物に限らず、身の回りの科学というものにも目を向けてみる。本や新聞、関連するテレビ番組や動画視聴サービスなども意識して見るようにし、知識を得るだけでなく、様々なことに疑問を感じられるよう努力すること。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ① 予め、教科書の太字の語句をチェックし、その意味をとらえておくこと。
- ② 宿題を出すこともあるので、出された宿題は、確実に提出すること。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

授業に集中し、話をしっかり聞き取ってその時間内で理解することが大切です。ノートは板書事項だけではなく、先生が説明したことで重要なところや忘れそうなところもしっかりとメモすること。プリント類はきちんと整理し、ファイルにとじるか、ノートに貼付すること。

※実験について

- ・実験の時は早めに移動し、準備して待つこと。入室したら椅子を下ろし、白衣を着用。安全面を考慮し、白衣のボタンは必ず閉めること。
- ・説明を良く聞き、頭に手順を入れてから行動すること。また常に指示が聞こえる静かさを保ちながら実験すること。実験の道具や材料は高価なものばかり。勝手な行動は厳禁。
- ・実験レポートは指示された期日を守って提出すること。未記入箇所がないよう、さらに、期限に遅れないよう、気をつけて下さい。
- ・実験を欠席（公認欠席・出席停止を含む）した時は、後日行われる追実験に必ず参加すること。追実験は内容により放課後または昼休みに実施する。

3 授業後 ～ 復習 ～

教科書の太字の語句をノートに書き出し、語句の意味をまとめること。小テストや定期考査に向け、問題集を活用し、復習をしっかり行うこと。基本的な事項は暗記が必要。覚えるまで何度も取り組むこと。

○ 評 価 の 方 法

- ・下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60% を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。							
II 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。							
III 主体的に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	小テスト	授業の振り返り	実験レポート	課題	授業プリント		
I 知識・技能	◎	◎		○		○		
II 思考・判断・表現	◎		○	◎	○			
III 主体的に取り組む態度			◎	○		◎		

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	生物基礎	1年 全クラス	2	生物基礎 (数研出版)	改訂版 リードLightノート生物基礎 (数研出版) 二訂版 ニューステージ 生物図表 (浜島書店)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	5	生物の多様性、生物の多様性・共通性とその由来、生物の共通性としての細胞について学習する 【実験】様々な細胞の観察	・生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する ・生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する	A・B・C
5		2. エネルギーと代謝	2	生命活動とエネルギー、代謝とエネルギーについて学習し、その仲立ちとしてのATPについて学習する	・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する ・細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解する	A・B・C
6		3. 光合成と呼吸	5	呼吸と光合成について、エネルギーの流れの視点で学習する 酵素の特徴とはたらきについて学習する 【実験】カタラーゼのはたらき	・呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する ・酵素の特徴、酵素により生体内で必要な化学反応が進行することを理解する	A・B・C
6	考 査	第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA	5	遺伝情報を担う物質としてのDNAの構造や発見の歴史について学習する	・DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する ・遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する	A・B・C
7	第二回 考 査 範 囲	2. 遺伝情報の複製と分配	4	【実験】DNA模型の制作 体細胞分裂にともなう、遺伝情報の複製や遺伝情報の分配について学習する	・DNAが半保存的に複製されることを理解する ・細胞周期の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解する	A・B・C
8		3. 遺伝情報の発現	6	遺伝情報とタンパク質の合成について学習する 分化した細胞の遺伝子発現、遺伝情報と遺伝子、ゲノムについて学習する	・タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する ・個体内の細胞は遺伝的に同一だが、発現している遺伝子が細胞により異なることを理解する	A・B・C
9		第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節	6	体内での情報伝達には神経系と内分泌系による情報の伝達があり、からだの状態を調節していることについて学習する	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する ・自律神経系と内分泌系によって、情報伝達と体の状態の調節が行われることを理解する	A・B・C
10	考 査	2. 体内環境の維持のしくみ	1			
10	第三回 考 査 範 囲	3. 免疫のはたらき	6	体内環境の維持、とくに血糖濃度の調節のしくみと、血液の循環を維持するしくみについて学習する	・ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する	A・B・C
11		第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移	6	からだを守るしくみである免疫(自然免疫、適応免疫)について学習し、免疫と病気の関係について学習する	・からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する ・免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する	A・B・C
12	第四回 考 査 範 囲	2. 植生の分布とバイオーム	5	植生および植生の遷移について学習する	・植生の成りたちや相観について理解する ・植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する	A・B・C
1		3. 生態系と生物の多様性	6	世界のバイオームと日本のバイオームについて学習する 【観察】樹木の観察	・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する ・気候条件によっては、遷移の結果として森林のほか草原や荒原にもなることを理解する	A・B・C
2		4. 生態系のバランスと保全	5	生態系の成りたち、生態系と種多様性、生物どうしのつながりについて学習する	・生態系の成りたちを理解する ・生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する	A・B・C
3	考 査	問題演習・次年度の準備	1	生態系のバランス、人間の活動と生態系、生態系の保全について学習する	・生態系がもつ復元力について理解する ・人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する ・生態系の保全の重要性について理解する	A・B・C

1年 体育（男子）

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
 - ・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～
 - ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
 - ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
 - ・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。
- ・運動の技能、知識：①技能の習得 ②実技等の各種テスト ③ゲーム等での評価（動き）
 - ④単元の知識
 - ※練習やテスト、授業の中で確認(知識が生かされた動き)を行う。
 - (必要に応じて筆記テストの実施)
 - ⑤各時間での取り組み状況
- ・思考・判断・表現：①課題の把握(自己やチーム) ②課題に向けた取り組みや分析(思考)
 - ③①②の内容の他者への伝達（必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施）
- ・主体的に学習に
 - 取り組む態度：①主体的に取り組もうとする態度（活動の様子、活動量、自己の体調の把握）
 - ②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取り組みの姿勢
 - ③病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することができる。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習 状態 の 観察	実技 スキル	実技 テスト	各種テスト レポート 提出物 上記に 準ずる物
I 知識・技能	運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身につけている。	○	◎	◎	◎
II 思考・判断・表現	自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。	◎	◎	○	◎
III 主体的に 取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。	◎	○	○	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	1学年 男子	3	新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	105

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	1 4	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明を聞く	授業内容や評価方法について理解する。 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見つける。 各種目ごとに、どのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
5		体操・集団行動 陸上競技 体づくり運動	2 6 10	ラジオ体操、二人組の柔軟体操等 4列縦隊の列の増減、行進、駆け足 短距離走、長距離走 短縄	ラジオ体操の正しい順番、動きの注意点を理解し実践する。 集団での動きの合わせ方を理解し、実践する。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解し、技能を身につける。 これから3年間運動するにあたっての基礎作り。 瞬発力や持久力を身につける。	A・B・C A・B・C A・B・C
6			2	長縄	運動を行ううえでバランスなどの巧緻性を身につける。 ※チームワーク(協調性)を養う。	A・B・C
		考查				
7	第二回 考查範囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
8		ソフトテニス初級 (気温に応じて卓球)	10	色々なボールの打ち方について (卓球の技術練習)	ゲームをするときの打ち方の使い分けや動き方を身につける。 (サーブの方法や、ラリーの続け方、フォアハンドの活用の仕方について。)	A・B・C
		サッカー初級 (体育理論を含む)	19	パス、ドリブル、シュートについて	基本的なパス、ドリブル、シュートができる。 チームワークを養う。	A・B・C
	考查					
10	第三回 考查範囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
11		バレーボール初級 (体育理論を含む)	26	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。アンダー・オーバーレシーブやサーブ等の基本の技術を身につける。	A・B・C
		考查				
12	第四回 考查範囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
1		バスケットボール初級 (体育理論を含む)	18	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。ドリブル・パス・シュートなど等の基本の技術を身につける。	A・B・C
2		ニュースポーツ	7	各種目の基本技術の習得とルールの理解について	興味のある種目を選択し、身体の様々な部位を動かすことができる。	A・B・C
		考查				
3						

1 年 体育（女子）

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
 - ・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～
 - ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
 - ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
 - ・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて 100 点満点で行う。
- ・運動の技能、知識：①技能の習得 ②実技等の各種テスト ③ゲーム等での評価（動き）
 - ④単元の知識
 - ※練習やテスト、授業の中で確認(知識が生かされた動き)を行う。
 - (必要に応じて筆記テストの実施)
 - ⑤各時間での取り組み状況
- ・思考・判断・表現：①課題の把握(自己やチーム) ②課題に向けた取り組みや分析(思考)
 - ③①②の内容の他者への伝達（必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施）
- ・主体的に学習に
 - 取り組む態度：①主体的に取り組もうとする態度（活動の様子、活動量、自己の体調の把握）
 - ②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取り組みの姿勢
 - ③病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することがある。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習 状態 の 観察	実技 スキル	実技 テスト	各種テスト レポート 提出物 上記に 準ずる物
I 知識・技能	運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身につけている。	○	◎	◎	◎
II 思考・判断・表現	自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。	◎	◎	○	◎
III 主体的に 取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。	◎	○	○	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	1学年 女子	3	新高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	105

年間授業計画

年間授業計画						
月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A: 理解できた B: まあまあ C: 理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	1 4	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明を聞く	授業内容や評価方法について理解する。 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見つける。 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
5		体操・集団行動	2	ラジオ体操、二人組の柔軟体操等	ラジオ体操の正しい順番、動きの注意点を理解し実践する。	A・B・C
6		陸上競技	6	4列縦隊の列の増減、行進、駆け足 短距離走、長距離走	集団での動きの合わせ方を理解し、実践する。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解し、技能を身につける。	A・B・C
		体づくり運動	10	短縄	これから3年間運動するにあたっての、基礎作り。 瞬発力や持久力を身につける。	A・B・C
			2	長縄	運動を行ううえでバランスなどの巧緻性を身につける。 ※チームワーク(協調性)を養う。	A・B・C
	考査					
7	第二 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	10	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
8		卓球		練習の仕方について 基本技術の習得とルールの理解について 練習の仕方について	サーブの方法や、ラリーの続け方。 フォアハンドの活用の仕方について。	A・B・C
9		フットサル初級 (体育理論を含む)		19	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。 パス、シュート、ディフェンスなどの基本的な技術を身につける。
	考査					
10	第三 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	26	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
11		バレーボール初級 (体育理論を含む)		基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。 アンダー・オーバーレシーブやサービスなど基本的な技術を身につける。	A・B・C
		考査				
12	第四 回 考 査 範 囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)	18	馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
1		バスケットボール初級 (体育理論を含む)		基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。 ドリブル・パス・シュートなど基本的な技能を身につける。	A・B・C
2		ニュースポーツ		7	各種目の基本技術の習得とルールの理解について	興味のある種目を選択し、身体の様々な部位を動かすことができる。
	考査					
3						

1 年 保健

○ 学 習 の 目 的 と ね ら い

- 1 個人としてだけでなく、社会の一員として総合的に社会生活について理解することができる。
- 2 健康・安全に関する自他や社会の課題を発見し、解決方法を目的や状況に応じて伝えることができる。
- 3 自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりをするための態度を養うことができる。

○ 学 習 方 法 と 授 業 の 留 意 点

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・事前に教科書を読み、内容を把握すること。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・教科書、保健ノートと授業で配布される教材プリント（必要に応じて）を比較・確認しながらその要点を捉えること。
- ・授業において実生活（現状）を理解し、自分の考えを他者に伝えることができる。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・プリント・ノートへの記入漏れなどがいないか確認する。

○ 評 価 の 方 法 （ 定 期 考 査 考 査 と 観 点 別 ）

- ・考査は第2回・第4回の計2回行う。
- ・下記の観点に基づいて100点満点で行う。

※評価の観点は以下のとおり。 ※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習状態 の観察	提出物 (ノートやレポート または、それに 準ずる物)	定期考査
I 知識・技能	現代社会と健康の各分野について、個人や社会的な対策が必要であることを理解している。 安全な社会づくりのために、必要な事項を理解している。 応急手当について理解し、適切に行う技能を身に着けている。	○	◎	◎
II 思考・判断・表現	現代社会と健康・安全な社会生活について、各分野における原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えるとともに表現している。	○	◎	◎
III 主体的に 取り組む態度	現代社会と健康・安全な社会生活の各分野について、学習に主体的に取り組もうとしている。	◎	◎	

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健体育	保健	1年 全クラス	1	新高等保健体育 (大修館書店)	新高等保健体育ノート (大修館書店)	35

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第二回 考 査 範 囲	オリエンテーション	1	1年間の予定授業の進め方等の説明を聞く	1年間の流れと評価(考査2回など)を理解する。	A・B・C
		現代社会と健康				
		1 日本における健康課題の変遷	1	日本における健康のとらえかたについて	日本における健康課題や、その背景について理解する。	A・B・C
		2 健康の考え方と成り立ち	1	健康に関する考え方	健康のとらえ方の変化や健康が成立する要因について理解する。	A・B・C
5		3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	1	ヘルスプロモーションの考え方	ヘルスプロモーションの考え方を理解し、健康を保持増進するための環境づくりの重要性について知る。	A・B・C
		4 健康に関する意思決定・行動選択	1	健康に関する意思決定・行動選択について	健康における意思決定や行動選択の関係を理解し、より良い方法を知る。	A・B・C
	第二回 考 査 範 囲	5 現代社会における感染症の問題	2	感染症の流行とその要因について	感染症流行の社会的背景について知る。振興感染症・再興感染症について知る。	A・B・C
		6 感染症の予防	1	感染症の予防について	感染症予防の三原則を知り、予防に必要な社会および個人の取り組みについて理解する。	A・B・C
6		7 性感染症・エイズの予防	2	性感染症やエイズについて	性感染症、エイズについて理解し、正しい予防方法や社会的な取り組みについて理解する。	A・B・C
		8 生活習慣病の予防と回復	1	生活習慣病について	生活習慣病のリスク軽減や予防に必要な個人の取り組みについて・予防や回復のために必要な社会の取り組みについて理解する。	A・B・C
7		9 身体活動・運動と健康	1	身体活動・運動の重要性について	身体活動・運動と健康の関係について理解し、継続的な実践に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
8		10 食事と健康	1	食事の重要性について	食事と健康の関係について理解し、健康的な食事の実践に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
	第四回 考 査 範 囲	11 休養・睡眠と健康	1	休養と睡眠の重要性について	休養・睡眠と健康の関係について理解し、個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
		12 がんの予防と回復	1	「がん」について	「がん」の種類や発生要因を理解し、予防や回復に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
9		考査	1			
		13 喫煙と健康	1	喫煙と健康の関係性について	喫煙による健康への影響について理解し、健康被害の防止に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
10		14 飲酒と健康	1	飲酒と健康の関係性について	飲酒による健康への影響について理解し、健康被害の防止に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
		15 薬物乱用と健康	2	薬物と薬物乱用について	薬物乱用による健康・社会への影響について理解し、薬物乱用の防止に必要な個人・社会環境への対策について理解する。	A・B・C
11	第四回 考 査 範 囲	16 精神疾患の特徴	2	精神疾患について	代表的な精神疾患について理解し、発症や回復のポイントについて理解する。	A・B・C
		17 精神疾患への対応	2	精神疾患への対応について	予防や早期発見、治療・支援など適切な対応について理解し、心の健康の重要性を知る。	A・B・C
12		安全な社会生活				
		18 事故の現状と発生要因	2	交通事故について	事故と被害の実態について理解し、事故の発生要因について知る。	A・B・C
		19 交通事故防止の取り組み	2	交通事故の防止について	交通事故防止のために必要なことを理解し、事故には法的責任が生じることを知る。	A・B・C
1		20 安全な社会の形成	1	安全な社会形成に必要とされることについて	安全な社会をつくり、継続させるために必要な取り組みや環境整備について知る。	A・B・C
	第四回 考 査 範 囲	21 応急手当の意義と救急医療体制	1	応急手当と医療体制について	応急手当の意義と、手順・方法を身に付ける必要性について理解する。また、救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、利用法について知る。	A・B・C
2		22 心肺蘇生法	2	心肺蘇生法について	心肺蘇生法の意義や方法、手順について理解する。	A・B・C
		23 日常的な応急手当	1	ケガや、熱中症の基本的な応急手当について	日常生活で起こるケガの応急手当や、熱中症の予防法・応急手当について理解する。	A・B・C
		考査	1			
3		新年度への準備	1	新年度の授業内容について	新年度の授業内容を理解する	A・B・C

1 年 音楽 I

○ 学 習 の ね ら い

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指す。音楽 I では、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるとともに、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができるように、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。また、それぞれの分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）での取り組みに関して、自分でできること、歌うならば姿勢や声量など意識して取り組むようにしてください。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

2、授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
- ② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
- ③ 楽器を伴う授業があります。楽器類は大切に扱うようすること。
- ④ 実技演奏もあります。授業で取り組んだ成果を出してください。
- ⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

3、授業後 ～ 復習 ～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に生かしてください。

「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評 価 の 方 法

考査は実施しません。実技練習等への取り組み状況、ワークシート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技評価が4割～6割、実技練習等への取り組み状況が2割～3割、ワークシート評価が2割～3割となります。

観点ごとのポイント					
I 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けようとしている。				
II 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりについて考え、どのように表すか表現意図をもったり、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。				
III 主体的に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
評価の場面	①	②	③	④	⑤
	学習状況観察	ワークシート	小テスト	レポート	実技テスト
I 知識・技能		◎	◎	○	◎
II 思考・判断・表現	○	◎	○	◎	◎
III 主体的に取り組む態度	◎	◎			○

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
芸術	音楽Ⅰ	1年 選択	2	MOUSA 1 教育芸術社	なし	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考 査 範 囲	①明るくのびのびと歌おう ①ー1 斉唱「校歌」 ①ー2 2部合唱「翼をください」 ②ドイツ歌曲を歌おう ②ー1 「野ばら」(シューベルト) ②ー2 「野ばら」(ヴェルナー) ③音楽の要素を聴き取ろう ③ー1 「動物の謝肉祭」(サン＝サーンス)	6 8 4	①校歌の歌詞を覚え、のびのびと歌う。 ②姿勢や発声に気を配りながら歌う。 ③曲の雰囲気をつかみ、歌詞を理解し表現して歌う。 ①ドイツ語の発音に気をつけながら歌う。 ②曲の情景を思い浮かべながら表現の工夫ができるように歌う。 ①音楽を形づくっている要素やそれらの関係などを考えながら鑑賞する。	①歌詞を覚え、のびのび歌えるようにする。 ②姿勢や発声に気を配りながら歌えるようにする。 ③曲の雰囲気をつかみ、歌詞を理解し表現して歌えるようにする。 ①ドイツ語の発音に気をつけて歌えるようにする。 ②曲の情景を思い浮かべながら歌えるようにする。 ①音楽を形づくっている要素やそれらの関係に気づき鑑賞する。	A・B・C A・B・C A・B・C
5						
6						
7	第二回 考 査 範 囲	④ミュージカルの音楽を演奏しよう ④ー1 「サウンドオブミュージック」鑑賞 ④ー2 歌唱「サウンドオブミュージック」 ④ー3 リコーダー「My Favorite Things」	16	①英語の発音に気をつけながら、曲の持つ雰囲気に合わせて歌う。 ②リコーダーの演奏法を理解し、意欲的に演奏する。 ③ミュージカルの内容にあわせ、表現豊かに演奏する。	①英語の発音に気をつけながら歌うようにする。 ②リコーダーの演奏法について覚える。 ③表現豊かな歌唱と演奏に興味関心を持たせるようにする。	A・B・C
8						
10	第三回 考 査 範 囲	⑤日本の伝統楽器「箏」を演奏しよう ⑤ー1 さくら変奏曲	10	①箏を演奏体験し、音色と響きを味わう。 ②演奏方法を学習し、意欲的に取り組む。 ③日本独自の箏曲に触れることにより、幅広い音楽の世界を知る。	①日本の音を知覚し、味わわせる。 ②演奏方法を理解し、演奏表現できるようにする。 ③五音音階を知り、世界の音楽の幅広さを理解する。	A・B・C
11		⑥オノマトペで創作しよう ⑥ー1 オノマトペでリズム創作	7	①オノマトペのもつリズム感を味わう。	①オノマトペのもつリズム感やアクセントの特徴を生かした創作を行う。	A・B・C
12	第四回 考 査 範 囲	⑦作曲家「モーツァルト」について学習しよう ⑦ー1 「アマデウス」鑑賞 ⑦ー2 モーツァルトについて ⑧ギターの演奏法を覚えよう ⑧ー1 音階 ⑧ー2 第三の男のテーマ	5 10	①作曲家モーツァルトの人間像・生涯について知る。 ②モーツァルトの作品の豊かな音楽性を感じる。 ③モーツァルトの生きた時代の社会情勢と音楽との関係についても学習す ①ギターの名称・演奏法を知る。 ②音階・旋律を覚える。 ③ギターのコード(簡易コード)を学習し、演奏する。	①人間像・生涯について学習し、理解する。 ②様々な作品を通して、豊かな感性を感じさせる。 ③音楽の歴史の中にモーツァルトの存在が大きな位置をしめていることを理解する。 ①名称・演奏法を知り、興味関心を持たせるようにする。 ②音階・旋律を演奏できるようにする。 ③平易なアンサンブル演奏ができるようにする。	A・B・C A・B・C
3	考 査	これまでの授業のまとめ 新年度に向けて	2 2			

1 年 美術 I

○ 学 習 の ね ら い

美術の幅広い創造的活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・教科書等の予習は必要ありませんが、自然や生活の中の造形の美しさを感じ取ったり、優れた絵画や映像、デザインに触れる機会を積極的に持つなど、日頃から自己の感性を磨くことを薦めます。また、課題の前に関連する分野を様々な媒体を使って自分で調べてみることもアイディアを出すヒントとなります。
- ・筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁です。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・授業では多様な表現を学び、自分の作品として仕上げていきます。常に“主体的に”集中して授業に取り組み、完成までの見通しを持って課題に取り組むことが何より大切です。また、用具の手入れや後片付け、身の回りの清掃等は声がかかなくともしっかりと行ってください。夏場等の指示された時以外は飲食物の持ち込みは禁止となります。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・各課題で、各自の意図や意欲をみる「コンセプト記入用紙／自己評価(振り返り)」の記入があります。出来上がった作品の完成度だけでなく、どれだけ考えて(意図を持って)制作したかということも作者の制作過程を見る上で重要なことと考えています。

○ 評 価 の 方 法

- ・各期の課題（提出作品、アイディアスケッチ・下図・鑑賞等のワークシート、小テスト、コンセプト用紙/自己評価等）と授業への取り組み（課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等）を 100 点満点で評価する。

評 価 の 観 点								
I 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。							
II 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。							
III 主体的に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組む、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活を創造していく態度を養う。							
評 価 の 場 面	課 題						授業への取り組み	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	作品	アイディア スケッチ・ 下図	鑑賞 課題	小テス ト	コンセ プト用 紙	自己 評価等	準備・ 片付け	学習状況 の観察
I 知識・技能	◎	◎	○	◎	○			○
II 思考・判断・表現	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎
III 主体的に取り組む態度	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
美術	美術 I	1年 選択	2	高校生の美術1 (日本文教出版)	なし ()	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	ガイダンス	2	年間計画説明/美術の各分野について ・造形基礎理論(色彩・構図・感覚) ・鑑賞(教科書・映像作品鑑賞)	・美術の各分野に対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 ・感覚テスト等で色彩や構図の効果を体感し、各自が造形理論をフィードバックする。 ・教科書や映像の作品について、深く考察し、その良さや美しさについて自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C A・B・C
		基礎デッサン1	3	トーンパリュースケール作成	・鉛筆の種類や道具の特性を理解し、トーンを段階に描き分ける。	A・B・C
5		基礎デッサン2	6	立方体デッサン演習	・等角図法による立方体の制作手順を体得する。 ・明暗の序列、立体感、空間感の観点を理解し、実感を伴う素描表現を身に付ける。	A・B・C A・B・C
	第二 回 考 査 範 囲	映像メディア表現 「写真表現」	7	・カメラによる撮影・構図の工夫	・身の回りにもはや風景を構図による見え方の違いを意識して写真で切り取り、新鮮な表現を生み出す。 ・互いの写真を鑑賞し、創造的な見方・考え方で、意見を述べ合い、各自の作品を捉え直す。 ・制作意図等をワークシートに明確に記述する。	A・B・C A・B・C A・B・C
6		考査	なし			
		絵画 「西洋美術鑑賞」	2	・映像鑑賞(小テスト)	・各作品の精神面・造形面の制作意図や制作姿勢の違いを読み取り、自分の言葉で論述する。	A・B・C
7	第二 回 考 査 範 囲	「写真から描く風景画」 キャンバスに描くアクリル画	15	意図に応じたアクリル表現の可能性を追求する。 ・木炭デッサンの手法、地塗りの効果について ・構図、色彩、マチエールについて ・制作意図のプレゼンテーション、鑑賞における観察・論述について	・構図、色彩、マチエールの効果を理解し、各自の意図に応じた画面構成をエスキースの段階で十分検討する。仕上がりを見想定した地塗りの効果について理解する。 ・対象をよく観察し、木炭による明暗表現を適切に行い、空間感と実感が伴うデッサンを施す。 ・色彩やマチエール等で意図に応じたアクリル表現を工夫、実践する。 ・制作意図や工夫点等の詳細をコンセプト用紙に明確に記述する。 ・他者の作品を鑑賞し、作品の良さや造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8		考査	なし			
9		考査	なし			
10	第三 回 考 査 範 囲	等角図法演習	5	基礎デッサンの観点を応用し、平面図から立面図を描き起こす。適切な明暗表現で空間的に表現する。	・課題の条件を理解し、立体の形態、立体感、空間感を正しく想定し、実感が伴う明暗表現で鉛筆デッサンを行う。	A・B・C
		クラフトデザイン 木工「ペーパーナイフ」	12	日常的な道具の制作を通して、素材を生かし、機能性と美しさを兼ね備えた「用の美」の追求を目指す。 ・道具について／用と美の世界観 ・日本文化と木の関わり ・材料や用具の特性と扱い方	・機能美に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 ・意図に応じて材料や用具を効果的に使用し、実際の使用感や強度などを加味し、仕上げる美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 ・道具の扱いに注意し、片付けをしっかりと行う等、安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
11		考査	なし			
12	第四 回 考 査 範 囲	グラフィックデザイン 「CIデザイン」 仮想企業のロゴ・シンボル マークのデザイン	16	マークの目的、形態の構成や色彩等の造形要素の働きを加味しながら、創造的な表現の構想を練る。 ・CIデザイン上の観点 ・マークの目的、機能、歴史 ・構成技法、配色について ・用具の特性と扱い方	・独自性や象徴性、造形性を加味しデザインを構成する。 ・日本や諸外国等の優れたマークの造形的な良さや社会的な役割、論理性を理解する。 ・デザインの構成理論、配色の色彩理論を理解する。 ・用具の特性を理解し、可読性や仕上げる美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図を詳細に分かりやすく記述する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
1		考査	なし			
2		考査	なし			
3		日本の美術 「箔講座」	2	・日本美術の特徴、歴史 ・金箔と白描画の技法	・日本美術の特性やその良さを理解する。 ・古典作品の特徴や美意識を作品の構図や表現に生かす。	A・B・C A・B・C

1 年 英語コミュニケーション I

○ 学 習 の ね ら い

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域（聞くこと・読むこと・話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くこと）において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

ベーシックノートを使用して、各レッスンの新出単語の意味を調べる。辞書を十分に活用する。
発音に注意し、できるだけ多く音読練習をする。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

教科書・授業用ハンドアウト・辞書・ベーシックノートを用いて授業を行うことが中心になる。各レッスンのストーリーがどのように展開されていくのか、段落ごとの関係性を把握しながら読む。各レッスンの既習した内容のペーパーテスト及び教科書の学習内容に準じたパフォーマンステストを実施する。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業で使ったベーシックノートや授業用ハンドアウトの内容を復習する。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。							
II 思考・判断・表現	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。							
III 主体的に取り組む態度	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	教科書に関わる小テスト	課題提出	課題テスト	言語活動に取り組む姿勢	パフォーマンステスト1	パフォーマンステスト2	
I 知識・技能	◎	◎		○		○	○	
II 思考・判断・表現	○	○			○	○	○	
III 主体的に取り組む態度			○		◎	◎	◎	

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	英語コミュニケーションⅠ	1年全クラス	3	COMET English CommunicationⅠ (数研出版)	・COMET English CommunicationⅠ ペーシクノート(数研出版) ・Enjoy!ドリルで英文法 改訂版(美誠社)	105

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	Lesson 1 What Did You Do in Japan?	8	海外からの旅行者が日本での経験を旅行サイトの掲示板に投稿する	・海外旅行サイトの掲示板の投稿者が日本で体験したことについての文章を読み、要点を把握することができる。また、過去形の構造や用法を理解する。 ・思い出に残っている経験について、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
5		Lesson 2 When Do You Feel Happy?	8	ダイキがクラスメートに自分が熱中しているダンスについて話す	・自分の趣味について必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、進行形の構造や用法を理解する。 ・自分の好きなことについて、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
6		Lesson 3 Onigiri Goes Overseas	8	日本のおにぎりの海外での人気について、ハルカが学校新聞に記事を書く	・日本の文化について必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、助動詞の構造や用法を理解する。 ・日本の文化について、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
	考査		1			
7	第二回 考査範囲	Lesson 4 Pictograms	11	東京五輪をきっかけに世界でも一般的になったピクトグラムについて、リョウタがスピーチをする	・ピクトグラムについての文章を読み、要点を把握することができる。また、不定詞(名詞用法・形容詞用法・副詞用法[目的])の構造や用法を理解する。 ・身の回りにあるピクトグラムについて、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
8		Lesson 5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler	11	病院で子どもたちを癒すファシリティドッグの日本初のハンドラー、森田さんへのインタビュー	・ファシリティドッグのハンドラー森田優子さんについての文章を読み、要点を把握することができる。また、動名詞(主語・補語・目的語として)の構造や用法を理解する。 ・興味のある職業について、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
9			1			
10	第三回 考査範囲	Lesson 6 Convenience Stores: Keys to Their Success	11	コンビニエンスストアが商品売るための工夫について、ハルカが研究発表を行う	・コンビニエンスストアの成功のかぎについて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、that-節の構造や用法を理解する。 ・自分の好きな店やよく行く店について、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
11		Lesson 7 High School Aquarium	11	高校で水族館を運営する水族館部の生徒へのインタビュー	・高校の水族館部の活動についての文章を読み、要点を把握することができる。また、現在完了(継続・経験・完了)の構造や用法を理解する。 ・自分たちの学校について、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	Lesson 8 Smart Farming	11	スマート農業に関するウェブサイトの記事	・新しいテクノロジーを用いた製品について必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、受け身の構造や用法を理解する。 ・生活を快適にするテクノロジーについて、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
1		Lesson 9 Food Waste	11	食品廃棄の問題について、ダイキが学校新聞に記事を書く	・食品廃棄の問題についての文章を読み、要点を把握することができる。また、比較の構造や用法を理解する。 ・食品廃棄を減らす取り組みについて、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
2		Lesson 10 William and His Windmill	11	電気もない貧しいアフリカの農村で、独学で発電のための風車を作った少年ウィリアム・カムクワンバの実話	・独学で発電の風車を作ったウィリアム・カムクワンバについて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、関係代名詞(who / which / that)の構造や用法を理解する。 ・地域のために自分なら何ができるかについて、英語で書く／発表することができる。	A・B・C A・B・C
3	考査		1			
		新年度の準備				

1 年 論理・表現 I

○ 学 習 の ね ら い

多様化している生徒の実態を考慮し、中学校までの学習を踏まえ、中・高の接続を円滑に行う。3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた総合的な言語活動を通して、「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化し、特に論理的に発表する能力を育成する。

○ 学 習 方 法

- 1 授業の前 ～ 予習 ～
サブノートを使用し、各レッスンの学習項目を確認する。
- 2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～
教科書を用いて授業を行うことが中心になる。
- 3 授 業 後 ～ 復習 ～
サブノートを使用し、確認する。

○ 評 価 の 方 法

- ・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた総合的な言語活動を通して、論理的思考力や批判的思考力を理解している。							
II 思考・判断・表現	コミュニケーション活動や体験を通して、他者を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成する。							
III 主体的に取り組む態度	自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培い、学んだ内容の深化・発展に積極的に取り組む。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	小テスト	学習状況の観察	提出物	パフォーマンステスト1	パフォーマンステスト2		
I 知識・技能	◎	◎	○		◎	◎		
II 思考・判断・表現	◎	◎			◎	◎		
III 主体的に取り組む態度			◎	◎	◎	◎		

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	論理・表現 I	1年全クラス	2	My Way Logic and Expression I (三省堂)	My Way Logic and Expression I サブノート (三省堂)	70

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves	8	・現在形(be動詞・一般動詞)	・be動詞や一般動詞の現在形の特徴やきまりに関する事項を理解でき、それを用いて自己紹介できる。	A・B・C
5		Lesson 2 School Life	8	・過去形(be動詞・一般動詞) ・現在進行形・過去進行形	・動詞の過去形、現在進行形や過去進行形の特徴やきまりに関する事項を理解でき、身近な人や物事に関する説明文を発話し、書くことができる。	A・B・C
		考査	1			
7	第二回 考查範囲	Lesson 3 The Arts	5	・未来表現 ・基本時制のまとめ	・未来表現や基本時制(現在、過去、未来)の特徴やきまりに関する事項を理解でき、事実や自分の考えを発話し、書くことができる。	A・B・C
8		Lesson 4 Food and Culture	6	・現在完了形①(完了・経験) ・現在完了形②(継続)・現在完了進行形	・現在完了形(完了、経験、継続)や現在完了進行形の特徴が理解でき、気持ちを表現できる。	A・B・C
9		Lesson 5 Welcome to Our Town	6	・助動詞 ・受動態	・助動詞や受動態の特徴を理解でき、基本的な用法を理解し作文できる。	A・B・C
		考査	1			
10	第三回 考查範囲	Lesson 6 Traveling Abroad	5	・不定詞①(名詞的・形容詞的用法) ・不定詞②(副詞的用法・原形不定詞)	・不定詞の3用法を区別して理解でき、それを用いて発話したり作文できる。	A・B・C
		Lesson 7 Sports	6	・動名詞 ・分詞の後置修飾・分詞構文	・動名詞と不定詞の共通項が理解でき、分詞構文を用いて発話したり、作文できる。	A・B・C
11		Lesson 8 Everyday Technology	6	・比較①(比較級) ・比較②(最上級・同等比較)	・比較級の基本的用法が理解でき、比較級を用いて最上級を表すことができることを理解できる。	A・B・C
		考査	1			
12	第四回 考查範囲	Lesson 9 Take Care	8	・関係代名詞①(主格、目的格) ・関係代名詞②(目的格の省略)	・関係代名詞の基本が理解でき、どのような場合に省略できるかを理解できる。	A・B・C
		Lesson 10 SDGs-Take Action!	8	・関係副詞 ・仮定法	・関係代名詞との違いが理解できる。仮定法と現実法の違いが理解でき、作文できる。	A・B・C
		考査	1			
3		新年度の準備				

1 年 情報 I

○ 学 習 の ね ら い

- ・ 具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用するための力を養い、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・ 教科書を本文だけではなく、図や注釈なども含めてよく読みましょう。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・ 座学の授業では、ワークシートに授業の内容を記入して毎回提出する。記入漏れや間違いがあった場合に再提出する。
- ・ 実習の授業では、例題に取り組んだ後、発展問題に取り組む。授業では、集中し、ポイントを理解する。

3 授 業 後 ～ 復習 ～

- ・ 教科書を読み、ワークシートの振り返りをする。
- ・ 情報社会に主体的に参画するには、情報に関する知識と技能の習得が大切なので、定期考査前だけでなく、日頃から予習・復習に取り込むこと。

○ 評 価 の 方 法

- ・ 下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60%以上を原則とする。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
II 思考・判断・表現	事象と情報とその結び付きの観点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
III 主体的に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

評価の場面	考査	考査以外				
	①	②	③	④	⑤	⑥
	考査	学習状況 の観察	プレゼンテー ション	課題	ワーク シート	作品
I 知識・技能	◎		○			○
II 思考・判断・表現	○		◎	○		◎
III 主体的に取り組む態度		○	○	○	◎	○

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
情報	情報 I	1年 全クラス	2	最新情報 I (実教出版)	最新情報 I 学習ノート(実教出版) パーフェクトガイド情報(実教出版)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	オリエンテーション 第1章 情報社会と私たち 1節 情報社会	16	・授業の進め方、評価、情報処理室の使い方について ・情報社会の現状や情報の特性について理解する。 ・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ・知的財産について理解する。 ・他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 ・社会の中で活用されている情報技術について理解する。	・情報社会の現状や情報化が進展する社会の特質について理解している。 ・情報と情報技術の活用により、加害者や被害者にならないための対策方法を理解している。 ・知的財産権の概要について理解している。 ・目的を達成するために、著作物を法にしたがって適切に利用する方法を理解している。 ・個人情報およびプライバシーの概念を理解し、保護や管理の方法について理解している。 ・社会の中の情報システムについて理解している。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5		2節 情報社会の法規と権利 3節 情報技術が築く新しい社会				A・B・C A・B・C
5		第2章 メディアとデザイン 1節 メディアとコミュニケーション 3節 情報デザインの実践 (文書作成ソフトによる文書作成)		・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。	・文字、図形、音声、静止画などの各表現メディア、情報メディア、伝達メディアの特性について理解している。 ・電子メールSNSなど、インターネットを利用する各種メディアとその特性について理解している。 ・文書の基本的な使い方について理解するとともに、実際に報告書やレポートを作成することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
6	考査		1			
7	第二回 考査範囲	2節 情報デザイン 3節 情報デザインの実践 (プレゼンテーション実習)	16	・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。 ・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。	・情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的について理解している。 ・情報をわかりやすく伝達するための文字や図の表現の工夫、表やグラフ、配色の工夫など基本的な方法を理解している。 ・プレゼンテーションの企画、準備、実施、評価・改善など、プレゼンテーションの流れについて理解している。 ・実際にプレゼンテーションのためのスライド等の資料をコンピュータで作成することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
7		第3章 システムとデジタル化 1節 情報システムの構成		・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。	・コンピュータの構成や計算の仕組みについて理解している。 ・ソフトウェアの種類とその働きを理解している。	A・B・C A・B・C
8		2節 情報のシステム化		・アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・2進数と情報量の関係、数値や文字をデジタル化する方法を理解する。 ・音声や静止画、動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・情報のデータ量を小さくする方法について理解する。	・アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。 ・2進数と情報量の関係や2進数・10進数の変換方法について理解している。 ・音声や画像の情報をデジタル化するための原理を理解している。 ・データ量から圧縮率を求めることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
9	考査		1			
10	第三回 考査範囲	第4章 ネットワークとセキュリティ 1節 情報通信ネットワーク	17	・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・Webページとメールの仕組みについて理解する。	・通信方式の種類やその違いについて理解している。 ・インターネット通信の階層構造、各プロトコルの働きについて理解している。 ・WWWや電子メールなど、インターネットのサービスの内容と基本的な仕組みを理解している。	A・B・C A・B・C A・B・C
10		2節 情報セキュリティ		・脅威に対する様々な安全対策について理解する。 ・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。	・情報セキュリティの3つの基本的な考え方について理解している。 ・情報セキュリティポリシーの概要や意義について理解している。 ・メッセージの送受信、デジタル署名、電子認証などに応用されている暗号化の方式と仕組みについてそれぞれ理解している。	A・B・C A・B・C A・B・C
11		第5章 問題解決とその方法 1節 問題解決 2節 データの活用 (表計算ソフトウェアによる実習)		・問題解決の手順について理解する。 ・表計算ソフトの基本的な使い方を学習し、活用方法について理解する。	・問題や問題解決の意味、問題解決の手順について理解している。 ・表計算ソフトのさまざまな機能や関数を活用し、データ処理やグラフの作成方法を身に付けることができる。	A・B・C A・B・C
12	第四回 考査範囲	3節 モデル化 4節 シミュレーション	16	・モデル化の意味について理解する。 ・シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。	・モデル化およびシミュレーションの意味について理解している。 ・シミュレーションの意義や方法について理解している。	A・B・C A・B・C
1		第6章 アルゴリズムとプログラミング 1節 プログラミングの方法		・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。	・アルゴリズムとプログラムについてそれぞれ理解している。 ・プログラミングの手順(設計→コーディング→テスト)を理解している。	A・B・C A・B・C
2		2節 プログラミングの実践 (プログラミング言語を用いた実習)		・変数や関数を使用したプログラムを作成する。	・変数を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成することができる。 ・関数の概念を理解して関数を使用し、簡単なプログラムを作成することができる。	A・B・C
	考査		1			
3		総復習	1			

第 1 回定期考查学習計画

【1】定期考查日程

考查時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考查点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代の国語			
言語文化			
地理総合			
公共			
数学Ⅰ			
数学A			
生物基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅠ			
論理・表現Ⅰ			
情報Ⅰ			

【3】学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 2 回定期考查学習計画

【1】定期考查日程

考查時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考查点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代の国語			
言語文化			
地理総合			
公共			
数学Ⅰ			
数学A			
生物基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅠ			
論理・表現Ⅰ			
情報Ⅰ			

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 3 回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代の国語			
言語文化			
地理総合			
公共			
数学Ⅰ			
数学A			
生物基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅠ			
論理・表現Ⅰ			
情報Ⅰ			

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

第 4 回定期考查学習計画

【1】定期考查日程

考查時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考查点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代の国語			
言語文化			
地理総合			
公共			
数学Ⅰ			
数学A			
生物基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅠ			
論理・表現Ⅰ			
情報Ⅰ			

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

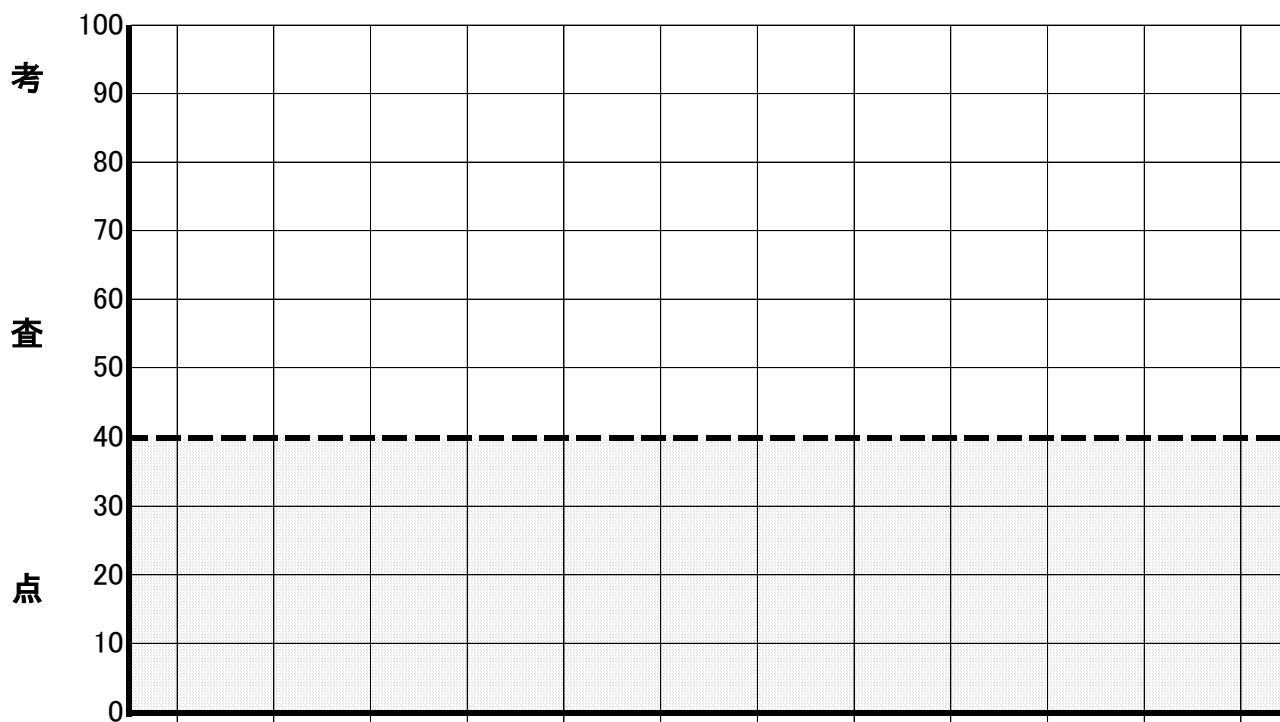
○ 考查点・評価点をまとめよう。

1期:黒

2期:赤

3期:青

4期:緑



科目名													
1期考查点													
2期考查点													
3期考查点													
4期考查点													

○ 評価点
のまとめ

1期評価点													
2期評価点													
3期評価点													
3期までの 合計点													
目標評定													
4期 目標点													
4期評価点													

評定「5」: 評価点80~100点

評定「4」: 評価点65~79点

評定「3」: 評価点45~64点

評定「2」: 評価点30~44点

評定「1」: 評価点29点以下

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							